名古屋芸術大学 美術学部・デザイン学部 同窓会情報誌

# NU PRESS

2010年10月1日 発行(年1回発行)第17号　発行・編集／名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部同窓会事務局
〒481-8535　愛知県北名古屋市徳重西沼65　Printed in Japan

2010 no.17

## アートのエネルギー、作ると観るを繋いでいく。

### 武藤 勇さん

デザイン科24期卒

～都市の祝祭～と題し行なわれている、三年に一度の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」。名古屋芸術大学卒業生の秋吉風人さん(絵画科洋画28期卒)が招待作家に選ばれるなど、沢山の卒業生や現役学生がアーティストやスタッフとして活躍しています。そんな中、トリエンナーレのサポーターズクラブで活動している武藤勇さんにお話しを伺いました。

写真上／9月初旬。賑わうカフェでの取材。
下／ATカフェの入る万勝S館(名古屋市中区)。トリエンナーレ展覧会場のひとつでもある長者町エリア内にあり、作品展示も行なわれている。

### 暑い夏と熱い人

――「まだ暑いのでもう少し涼しくなったら見て回りたい」と、あいちトリエンナーレについて話している親子に、ここへ来る途中で出会いました。評判は上々ですね。

8月21日に開幕してから酷暑続きで出足を心配していましたが、予想以上の来場者数のようです。このATカフェも涼を求めて、毎日大勢の方にご来店頂いています。

――このカフェはトリエンナーレを一緒に楽しみながら応援していくサポータズクラブ「LOVEトリーズ」の会員交流の場として機能しているんですよね。

はい、僕はそのサポーターを取りまとめる役割を担っています。トリエンナーレを見に来てくださった方が、よりアートを楽しめるよう、サポーターズクラブが結成されました。そのクラブ内でのイベントを、会員の皆さんと一緒に話し合い企画しています。

――これまでも「N-mark エヌマーク」として、作品展示やレジデンスが出来るようなスペースづくりや、まちづくりと連動した展覧会の企画など、インディペンデントなアートオーガナイザーとして精力的に活動してきた印象です。このタイミングでサポーターズクラブに参加しようと思ったのはなぜでしょう。

これまでN-markの活動やそれ以外でも、いろいろな企画や運営をしてきましたが、今回はすでにコンセプトや予算等がしっかり準備されている環境です。さらに言えば、トリエンナーレというきっかけで、優秀なかつ最初からアートを楽しもう、盛り上げようとモチベーションの高い人々が自然と集まっているわけですよね。これはとてもプラスな部分で、これまでのパターンでいけば予算、場所、人、すべて白紙のところからスタートしていたのに対して、しっかりと場が用意されてあるわけです。これは良いチャンスだなと思いました。

(次ページへ続く)

重慶のアート団体《Organhaus Art Space》が中心となり企画された、「重慶インターナショナルアーティストワークショップ2009(2009 Chongqing Internetional Artist Workshop) 」に日本代表として参加。約3週間現地に滞在しディスカッションと制作、発表を行なった。

## 観る側のエネルギーで活性していく

——具体的にはどのような仕事内容ですか。

定期的な話し合いが必要だと感じ、毎週火曜日集まることを提案しました。名付けて「火曜日活動」。(笑)

サポーターの皆さんに集まって頂いて意見を交わし、自分たちがやれる事は何なのか、どういう方法でそれが実現出来るのか、そういったことを話し合っています。

交流会や勉強会は頻繁に開催されていますし、今はサポーターがサポーターに向けて作品のガイドツアーを企画しています。《スペクトラナゴヤ》というイベントが9/24、25限定で行なわれるのですが、その作品を愛知県内外、各所から撮影してウェブにアップしていくなど考えています。

——サポーターが作品を観て、発信する様々な方法を探っていくわけですね。

ええ、バランスを見ながら足りない事があれば補い、アートサポーターの発信したいことを上手く引き出していくわけです。

アートが好きな人達でカフェに集まって、イベント見て、勉強し感想を…こういったことは僕らも今まで何度も行なっていて、その殆どはクリエーター側が多かった。それで少し視点を変えてみようと。

アートを観る側も、面白い作品、シリアスな作品など、観る事でエネルギーを受け、感動や感情といった何らかのエネルギーが溜まっていく。作品を観て発言したいし、なんらかのアクションを起こしたい。鑑賞者や、アートサポーターが積極的に「観る」ということに対して、自主的に表現して発信していくというのは新しい動きだと思っています。

この動きが、周辺地域のアートへの理解や活性化、しいてはトリエンナーレの次回開催にも繋がっていくと考えてます。制作する側としても、レスポンスやアクションがあるというのは大変励みになるし、嬉しいものです。

——武藤さんはアーティストとしても活動していらっしゃいますが、作品制作についてはどうですか。岐阜にある情報科学芸術大学院大学[IAMAS]を昨年出たばかりですよね。

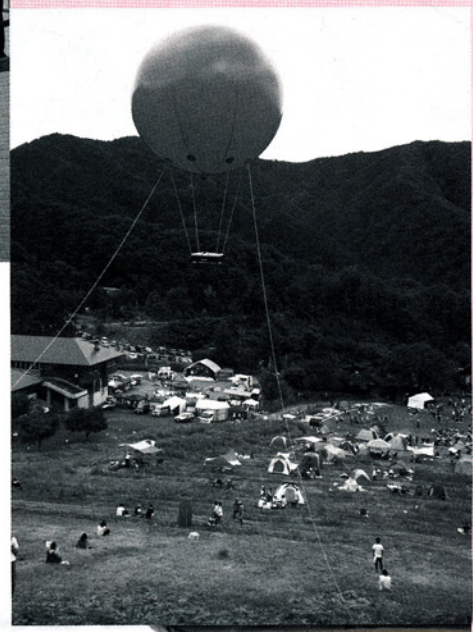
大学院にいったのは私生活でも結婚したりと大きく変化があった中で、今のうちにマスターを取っておかないといけないなと。また、作品に家電を取り入れたりすることがあったのですが、PCなどの情報機器技術についてブラックボックスな部分があって、プログラミングや電子機器を中心に学び、クリアにしておきたいというのもありました。

発表のスパンについては、焦っているということは全くなくて、むしろあまり考えていないというのが正直なところですね。

最近では中国のアートスペースに招待されて、滞在制作および展覧会を行ないました。また9月中旬にN-markとして岐阜県揖斐高原貝月高原スキーリゾートで開催される音楽フェスティバル「OTONOTANI」において、アートプログラムを昨年に引き続き展開します。ここでは、僕自身も出品予定です。

また近々行なわれる大きなイベントとして、名古屋デザインセンターで「クリエィティブ・デザインシティなごや2010」が開催されますが、その中のプログラム、国際デザイナーワークショップに参加する予定です。以前関わった、アートスペース「名古屋港20号倉庫」について、これまでの活動を含めて今後の展開を視野に発表します。

——忙しい日々が続きそうですね。これからも精力的な活動を期待しています。



《バルーンBBQ》
「OTONOTANI ART PROGRAM 2010」において行なわれた、BBQエネルギーで飛ぶ熱気球のテスト飛行。コンロから上がる熱エネルギーでのみ、気球を浮上させる試み。

**あいち トリエンナーレ 2010**

**8.21→10.31**

三年に一度開かれる新しいアートの国際芸術祭、「あいちトリエンナーレ」。第一回のテーマは〈都市の祝祭 Arts and Cities〉と題して、国内外130組以上のアーティストが集い、現代美術、ダンス、演劇等のパフォーミング・アーツやオペラなどの世界最先端の現代アートを展開しました。名古屋芸大**絵画科卒の秋吉風人さんが招待作家**に選ばれ、さらに**アシスタントエデュケーターとして美術文化学科卒業の松村淳子さん**(34期卒)が参加しています。また、中国のアーティスト蔡國強氏の「火薬絵画」公開制作が学内で行なわれ、大学院生がボランティアとして参加。会場となった体育館には各メディアが取材に押しかけ、話題となりました。

[開催概要]正式名称:あいちトリエンナーレ2010/Aichi Triennale 2010◉テーマ:都市の祝祭 Arts and Cities◉開催時期:2010年8月21日[土]—10月31日[日]◉会場:愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町地区ほか◉主催:あいちトリエンナーレ実行委員会◉芸術監督:建畠哲(国立国際美術館館長)

**サポーターズクラブ「LOVEトリーズ」については ホームページ http://atsc2010.com/index.htm をご確認ください。**

# フレスコ画を通じた文化と心の交流

## 鈴木 利穂さん

**日本画コース25期卒**

フランスと世界の文化芸術の交流を目指し、CITU（ユルスリーヌ国際文化センター）日本事務局を運営している日本画25期卒鈴木利穂さんにお話を伺いました

――CITUとはどんな組織ですか？

CITUはフランス在住の名古屋芸術大学名誉教授である高橋久雄先生が、2000年に設立したユルスリーヌ国際文化センターのことです。フランス国ブルゴーニュ州オータン市に本部をおき、文化・芸術の交流、特にフレスコ壁画芸術促進を目的に、諸国民間の文化交流の場の提供、芸術・音楽・文学などの文化領域における展覧会や・行事の開催、フレスコ壁画制作者の養成、日本文化及び伝統の多角的紹介などの活動をしています。

――CITU日本の事務局ではどのような仕事を行っているのですか？

会報「Par avion」の発行、展覧会や講演会、そして日仏交流の場の企画、会員募集、会員書の発行、その他事務処理を約7年間ボランティアとして、殆ど一人で行っています。

アトリエでの作業の様子。

――鈴木さんおひとりで？！凄い仕事量ですね。その間色々な事があったと思いますが、その活動を通して何を感じましたか？

人との結びつきの大切さとその反対側にある、現実的な側面を感じています。理想だけでは出来ないこと、周りの方々の応援で成り立っていることも強く感じています。またこの会は先生の活動支援にもなっていますので、色々な角度から物事を見解する力を勉強させていただいています。

――人の為になると同時に、自分の糧にもなっているのですね。

そういえば新聞で、歴史的建造物である古い塔の中に、歴史に刻まれるフレスコ壁画を制作されるという高橋先生の記事を拝見しました。1階の天井高が10mもあるとか。

はい。2010年6月1日にその仕事がスタートしました。筆入れ式には私も参加し、フランス国中が注目をしている大事業なのだと、肌で感じてきました。

――とても完成が楽しみです。名古屋芸大の学生も塔の一部にフレスコ制作をすると聞きましたが。

この夏に卒業生、在学生が渡仏しますよ。

――文字通り日本とフランスの架け橋をされているといえますが、最後に利穂さんが感じるCITUの今後の展望をお聞かせ下さい。

応援者が増えていき、今始まったばかりの歴史的建造物へのフレスコ制作が、10年以内に完成できるよう支援したいと思います。
その後の発展は高橋先生の指向により変化していくと思います。良い方向に向かって欲しいです。そして若い人達がフレスコ壁画制作をとおして、また高橋先生の生き方や文化交流の経験から人生の何かに光があたり、成長されていくことを願い、お祈りします。

ありがとうございました。これまでに利穂さんの活動を通じて多くの人々が、喜びや学習の場を体験された事と思います。
CITUのますますの発展と日仏文化の広がりを心よりお祈りいたします。

☆ユルスリーヌ国際文化センター
URL= http://www.citu.jp/index.html

# 自然の中で仕事と子育て
## 上田 進吾さん
デザイン科23期卒

勝沼醸造株式会社／上田さんが管理する葡萄棚

**現在、山梨県勝沼のワイナリー「勝沼醸造株式会社」で葡萄の栽培に携わる上田さんに、お話を伺いました。**

――デザイン科を出て今はワイナリーに。この仕事をするきっかけを教えてください。

大学を出た後は、デザインの仕事がしたくて看板デザインなんかの仕事をしていたんだけど、20代の時にワーキングホリデーをとって一年間オーストラリアに行ったんです。向こうでいろいろなところに行って自然を満喫してるうちに、自然の凄さを感じて、自然相手の仕事がしたくなって。

ワーホリ中に出会った奥さんと結婚して、子供が産まれたときに、子育てはやっぱり自然いっぱいの田舎が良いなあと二人で考えて、思い切って山梨の果樹園に勤めることにしたんですよ。オーストラリアでは、ワインが日常的だったし、ワイン美味しいでしょ。そこでワイン造りへの興味がますます湧いて、こちらで出会った会社の社長にアプローチして今の仕事つくことができたわけです。

――どんな仕事をしてるんですか？

僕が担当しているのは、ワイン用の葡萄の栽培で、葡萄棚の整備や収穫などをやってます。仕事はきついけど、新酒が出来た時にその年のワインが飲めるがなにより報われる瞬間だし、嬉しいですね。

うちの会社は、日本固有の品種、甲州種というワイン造りに特化した品種でワインを造っていて、元から日本にある葡萄で造ってるから周りはみんな「日本酒」って呼んでるんですよね。意外と和食に合うんですよ。

数年前から、国内のワインコンテストはもとより、フランスやヨーロッパのワインコンテストでも受賞するようになって、甲州葡萄が世界の白ワイン品種と方を並べる品質である証になっていきました。フランスのボジョレ・ヌーボーは、11月の第三木曜日が解禁なんだけど、それに対抗して山梨では、11月3日が甲州ヌーボーの解禁日です。

――葡萄の日本酒、一杯やりたくなってきました。今の会社を選んだ理由は、そのこだわりぬいた製法に惹かれたんですね。

そうだね。大手と違い、勝沼の土地と、甲州葡萄のみ、味を落とさないために生産量を限定する。時間と手間隙かけて造る会社のこだわりと、この美味しいワインに惚れてしまったのでしょう。

――では、これからの夢はなんですか？

夢ですか？ワイナリーを立ち上げたいなんてカッコいいこと言ってみたいけど、毎年美味しい葡萄を造りを続けていけたらいいです。いつか自分の育てた葡萄だけで、美味しいワインが造れたら幸せです。

かんぱちを手に。趣味は釣り。

――彫刻科を卒業してなぜこの世界に？

たまたま知り合いがディズニー関係の仕事をしていて、ちょうどディズニーシーの建設が始まった時に声をかけてもらったのがきっかけです。仕事を続けているうちにどんどん楽しくなってしまって。それが結果今まで続いてる感じかな。

――特殊塗装とは、具体的にどんな仕事なんですか？

エイジングと言って、よく知られているのは、愛地球博のサツキとメイの家のように、新しく建てた建物とかを古めかしく見えるように加工塗装したり、FRPやモルタルで出来た

# 美術で自己表現の手助けを
## 飛田裕美子さん
美術文化学科37期卒

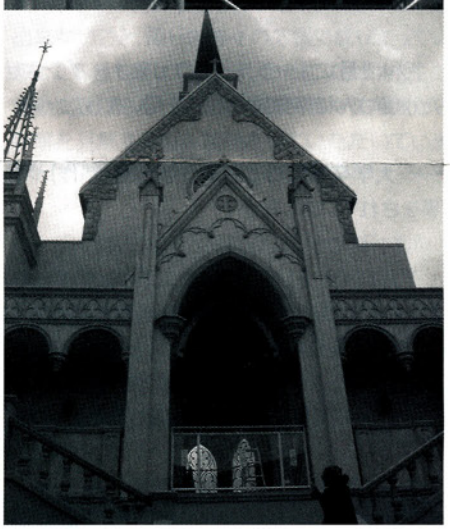
## 新しいものを老け顔に?!

# 平山 力さん

### 彫刻科23期卒

ディズニーリゾートなどのテーマパークや結婚式場などいろいろな施設で、特殊塗装の仕事をされている平山さん。特殊加工とはいったいどんな内容なのでしょうか。

加工途中の結婚式場のチャペル。



岩や木などを本物のように塗る仕事ですね。ディズニーリゾートを主に、新しいアトラクションや傷んだところの修復などを、お客さんが居ない時間帯に作業しています。たまに結婚式場とかイベント会場なんかに行って塗装することもあります。

——どんなところが難しいですか?

そうですねこの仕事は、時間をかければかけただけ良くなるんだけど、決められた時間の中でどれだけ良い仕事が出来るかが、一番難しいところですかね。

今朝新規で入ってきた仕事を、そのまま徹夜で仕上げなくてはいけないなんてことはしょっちゅうで、いつも時間に追われいます。限られた時間の中で、納得のいく仕事ができるように日々努力ですね。徹夜明けでよい仕事が出来たときの朝なんかは、とてもすがすがしく格別に気持ちがいいですよ。

——今後の目標を教えてください。

たまに映画のセットの仕事もは入ってくるんだけど、この仕事もコンピューターグラフィックが主流になってきて、なかなか仕事を取るのが難しくなってきてるのが現状です。そんな中でも、この手仕事でなければ出来ない技術、自分にしか出来ない技術を身につけて続けていけるようにしていきたいと思っています。同じように夢を持って新しく入ってくる次の世代に伝えていけたらいいですね。

---

愛知県内の知的障害者を対象とした特別支援学校(養護学校)で常勤講師をしている飛田裕美子さん。
主に、高等部1年の美術の授業を担当し、美術部の活動にも関わっています。

—学校では、どのような授業をしているのですか?

絵を描いたり、ものを作ったり、授業で行っていること自体は、普通の学校とあまり変わらないですが、知的障害の子に合わせたレベルで目標を設定したり、内容が理解しやすいように考えています。
1学期の最初の授業では、コラージュをしました。自分が、講師になり初めて主で受け持つ授業だったので、まず子どもたちの好きなものを通じて、交流しながら授業ができたらいいなと思い、好きなキャラクターや人物が載っているチラシやパンフレットなどの印刷物を持ってきてもらいました。そして、紙以外の素材も組み合わせながら作品を制作していきました。
また学校の近くに生えている葦という草を使って、葦ペンを作る授業も行いました。その自分の作ったペンを使って、絵を描いてもらいました。コラージュの時は切ったり貼ったりが中心だったのに対し、葦ペンの授業では、ちゃんと対象物を正確に捉えて描くというのが目標だったので、苦手意識を表に出す子も多く、とても印象に残っています。

—近々「あいちトリエンナーレ2010」に、子どもたちを連れて行くそうですね。

美術部に所属している子どもたちと一緒に見学にいきます。愛知で初めてトリエンナーレが開催されるということで、ぜひ子どもたちにも見せてあげたいと、美術部の先生が中心となって企画しました。
事前に参加確認のためアンケートをしたのですが、美術館に行ったことのない子どもも多いんです。

—では、初めて美術館に行く子どもたちが、最新の現代アートに触れるわけですね

美術館でのマナーに加え、現代アートについての紹介もパワーポイントを使って事前学習を行ないました。子どもたちに、現代アートの作品には絵や彫刻だけはなく、写真や映像、空間表現など、いろいろなものが存在するんだということを知ってもらいたくて。でも本物を見て驚いてほしいので、トリエンナーレの出品作は前もって見せていません。

実際に、トリエンナーレ会場でいろいろな作品を見て、子どもたちがどういう反応をするかが楽しみです。

—最後に今後の目標を聞かせてください。

大学では美術史のことをやってきたので、子どもにも美術作品を見ることを、もっと楽しめるようになってもらえたらなという思いがあります。

私の学校の子どもたちは、本やテレビなどで自分の世界を広げている子もいますが、美術作品を見ることで、作家ごとに様々な表現があるということをぜひ知ってもらい、豊かな自己表現の手助けになればと思っています。

写真左から、ギャラリーカフェ店内。シンプルでスタイリッシュ。／手作りのケーキ。アートデコレーションされたソース。／小島さんが制作したペット肖像画が飾られる店内。／制作風景。

# アートに触れる場所づくり
# 小島 沙織さん
## 洋画コース34期卒

今年2月にギャラリーカフェをオープンさせた小島さんに卒業後のお話を伺いました。

――大学卒業後はどのような活動（制作）や仕事をされていましたか？

アルバイトをしながら、ウエディングボード、ウェルカムボード、似顔絵、ペット肖像画などの制作、販売をしていました。

――作品の制作に変化はありましたか？

写真家の展覧会が開催されている中でのインタビュー。

お客様からオーダーを頂いて制作するということは、内容や制作時間等に制限があったり、時には自分が描きたいものが描けなかったりという葛藤がありました。でも作品を納品する際にお客様が喜んで下さったり、お礼の言葉を頂くと自分の描いた作品が人の手に渡ることに嬉しさや楽しさを感じました。

――オーストラリアへ留学されたそうですが、なぜオーストラリアだったのでしょうか？

オイルパステルを使ってウェルカムボードやメニューボード等を制作するチョークアートの第一人者のモニーク・キャノン氏の存在を知り、その人の元で勉強したいと思いオーストラリアへの留学を決めました。

オーストラリアのゴールドコーストで3週間のホームステイをして学びましたが、現地では人の温かさや澄みきった海のブルーに感銘を受けると共に、鮮やかな色彩感覚を実感しました。

――ギャラリーカフェを始める経緯を教えて下さい。

オーストラリアの留学後、更に制作に没頭しましたが作品のオーダーは僅かなもので、他の仕事をしながら制作活動をしていくことの厳しい現実を目の当たりにしました。

売り込みが下手な自分の欠点を克服するために、2年間呉服店に勤めて飛び込み営業を経験して、再び作品の制作と販売、営業活動をスタートしました。

自分自身が身を持って経験しましたが、今の日本の芸術分野では活動の場が少ないという現状があります。様々な出会いの中で沢山の方々と話をする内に、それを変えたいと思うようになりました。

もっと人々が気軽にアートを楽しめ、アーティストが気軽に展示販売できるギャラリーカフェをオープンさせることを決意しました。半年間の準備期間を経て、今年の2月25日に名古屋市中区大須に『AGcafe　ART GALLERY&CAFE』をオープンすることができました。

――どんなギャラリーにしていきたいですか？

作品展示と喫茶が融合したギャラリーカフェ。絵に興味がない人にも気軽にアートに触れてもらえるような空間。芸大を卒業してもプロになるのは難しいという現実がありますが、同じ境遇のアーティストが羽ばたける場所にしていきたいです。

※貸しギャラリーなどの詳細は、ホームページをご覧頂き、直接お問い合わせ下さい。

**AGcafe　ART GALLERY&CAFE**
**URL=　http://www.agcafe.jp/**

## 同窓会役員紹介

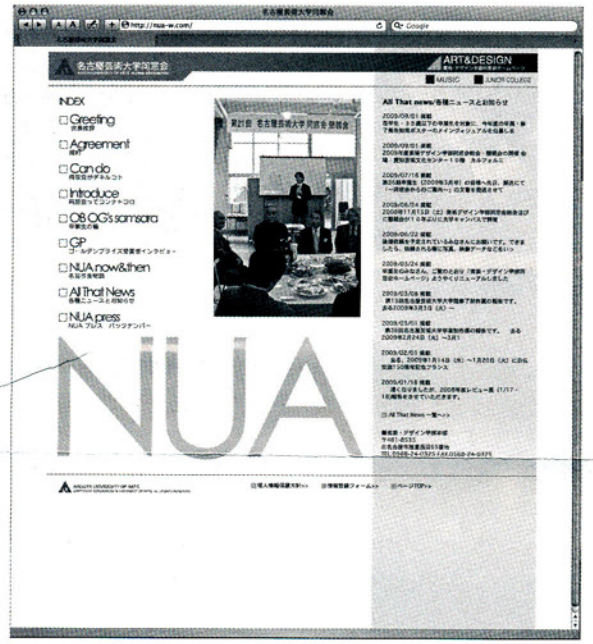
| | | | |
|---|---|---|---|
| 会長 | 4期 | デザイン | 青木高弘 |
| 副会長 | 19期 | 洋画 | 平田隆宏 |
| 副会長 | 20期 | 洋画 | 芳賀基純 |
| 副会長 | 22期 | 日本画 | 鈴木淳子 |
| 副会長 | 23期 | デザイン | 小林聖知 |
| 理事長 | 5期 | 洋画 | 杉浦尚史 |
| 理事（会計） | 5期 | 彫刻 | 岩井義尚 |
| 理事（会計） | 19期 | 洋画 | 石川重明 |
| 理事（会計） | 20期 | 日本画 | 中村恵美子 |
| 理事（書記） | 5期 | 日本画 | 白井久義 |
| 理事（書記） | 12期 | 日本画 | 荒木紀江 |
| 理事（事務局長） | 20期 | 洋画 | 浜辺由美 |
| 理事 | 21期 | デザイン | 永井瀧登 |
| 監査 | 22期 | 彫刻 | 鈴木琢磨 |
| 監査（税理士） | | | 福海幸雄 |
| 評議員（書記） | 23期 | 日本画 | 岡本昌子 |
| 評議員 | 4期 | デザイン | 平田俊也 |
| 評議員 | 20期 | 洋画 | 川上裕里 |
| 評議員 | 22期 | 洋画 | 小竹陽子 |
| 評議員 | 27期 | 洋画 | 鎌田桂太郎 |
| 評議員 | 28期 | 日本画 | 佐竹亜希子 |
| 評議員 | 28期 | 日本画 | 水野加奈子 |
| 評議員 | 28期 | 彫刻 | 加藤雄一郎 |
| 評議員 | 33期 | 日本画 | 長谷川基子 |
| 評議員 | 33期 | 日本画 | 福本百恵 |
| 評議員 | 35期 | デザイン | 永田敦子 |
| 評議員 | 36期 | 日本画 | 磯田衣里 |
| 評議員 | 36期 | 日本画 | 戸田淳也 |
| 評議員 | 37期 | 日本画 | 中村朋恵 |
| 評議員 | 37期 | 日本画 | 水野愛弓 |


**記事へのお問い合わせは…**

〒481－8535
愛知県北名古屋市徳重西沼65
名古屋芸術大学西キャンパス内
美術学部・デザイン学部同窓会事務局 宛
tel. 0568-24-0325
fax. 0568-24-0326

# Information

## 同窓会ホームページをご活用ください。
## アクセスは http://nua-w.com/




同窓会のホームページが昨年リニューアルされ一年が経ちました。
いくつか企画コーナーもできました。3ヶ月に1回、卒業生が友達をどんどん紹介していくコーナー『卒業生の輪』。もう読んで頂けましたか？
そのほか『ゴールデンプライス受賞者インタビュー』で、同窓生の活躍ぶりを紹介。『名芸今昔物語』では名芸大の歩みが詳しく掲載されています。
各種ニュースのコーナーでは卒業生から届いた個展・グループ展の案内、同窓会総会・懇親会のお知らせ等、随時更新。また、ホームページを通して皆さんからの貴重なご意見、卒業生の最新情報募集、住所変更等の登録手続きもホームページ内にご用意しています。是非一度アクセスしてみて下さい。

☞名古屋芸術大学のTOPページからもリンクされています。

### 再度確認を！お願いします！

**振込先の口座番号など、間違いが大変多くなっています。**
**書類をお送り頂く前に、もう一度番号などご確認ください。よろしくお願いいたします。**

様式1

**後援依頼**

○年○月○日

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会
会長　青木　高弘　殿

第○期○○○科卒業
○○○○○○　印

下記の作品展について後援をお願いします。

1）名　称　　○○○○展

2）場　所　　○○○ギャラリー
（住所・電話番号）

3）会　期　　○年○月○日～○年○月○日迄

4）代表者（出品者）　氏　名（第○期○○○科）
電話番号
郵便番号・住所

様式2

**報告書**

○年○月○日

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会
会長　青木　高弘　殿

第○期○○○科卒業
○○○○○○　印

1）名　称　　○○○○展

2）場　所　　○○○ギャラリー
（住所・電話番号）

3）会　期　　○年○月○日～○年○月○日迄

4）代表者（出品者）　郵便番号・住所
※氏　名　（第○期○○○科）・電話番号
注）※印は出品者全員記入

5）入場者数　　○○名

6）写真　　写真○点添付致します。

以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。
振込先／○○銀行・○○支店・○○座・Ｎｏ.○○
口座名義（フリガナ）

## 同窓会が後援を行った展覧会報告

2009年4月から2010年3月まで、同窓会が後援を行った主な展覧会を下記に報告します。後援依頼は後援規約をよく確かめた上、ご応募下さい。ホームページでは全報告、後援規約を掲載しております。

【第9回つむじ日本画展】
野澤朋恵、安藤さよ子、鈴木朋子、野村武史、余語英明
（全員27期絵画科）
妙香園画廊　2009年7月30日～8月4日

【見持祐子展】（22期絵画科洋画）
ぎゃらりい西利　2009年8月12日～18日

【石神則子展】（32期絵画科洋画）
GALLERY APA　2009年9月11日～27日

【3人展】
泉秀憲（11期絵画科）、川田英二（22期版画）
田中桂（32期絵画科）
アートスペース美園　2009年9月25日～10月6日

【PERU FESTIVAL】ミラゴロス久我（36期デザイン）
RBASE CAFE　2009年10月17日～17日

【Transition】
牛田志織（31期絵画科）、児玉直美（31期絵画科）、仲間沙織（31期絵画科）、深山桃子（旧姓伊藤、30期絵画科）
ギャルリーくさ笛　2009年11月18日～23日

【佐々木美樹子油絵・イラスト展】（17期洋画科）
セントラルミニギャラリー　2010年1月6日～29日

【百千鳥～日本画作品展】
福本百恵（33期絵画科）、長谷川基子（33期絵画科）
妙香園ギャラリー　2010年2月11日～2月16日

【柴田麻衣　個展】（29期版画）
ギャラリーSUZUKI　2010年3月23日～3月28日

## 作品展に於ける後援規約

名古屋芸術大学美術学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

### 1. 資格

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓生で会費を収めた者。

### 2. 後援金

個展・グループ展（参加者全員が同窓生であること）とも1回に二万円とし、各参加者につき年（期間：4月1日より翌年の3月末日まで）1回とする。但し、名義後援は認める。

### 3. 手続き

イ）会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。

ロ）作品展終了後1ヶ月以内に、DM及び会場（作品）写真数点を添え報告書を提出する。尚、DM及び写真は資料にするため返却出来ませんので御了承ください。

### 4. 条件

イ）作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会」を明記する。

### 5. 再振込の手数料ご本人負担について

イ）報告書の振込先に間違いがあった場合は、2万円から振込組戻し手数料（840円）と、再度振込時の手数料（三菱東京UFJ銀行宛315円・他行宛630円）を差し引いた金額を、後援金として入金させていただきます。

### 6. 問い合わせ・送付先

名古屋芸術大学美術・デザイン学部
同窓会事務局
愛知県北名古屋市徳重西沼65
TEL0568-24-0325

# 第23回 同窓会総会・懇親会 開催のお知らせ

第23回同窓会総会をこの秋開催いたします。

今年度は場所を少し郊外に移しまして、名古屋市営地下鉄池下駅近くにあります「ホテルルブラ王山」での開催です。

総会では昨年度の活動報告、これからの活動予定、予算の収支報告といった、会員の皆様にとって大事な内容を議事運営しております。懇親会だけではなく、総会からのご参加をお願い申し上げます。

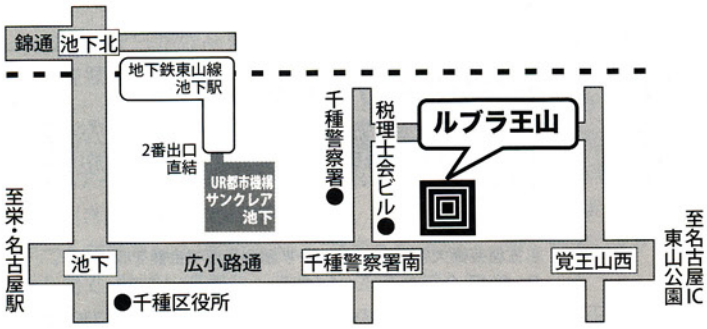
総会後に行なわれます懇親会につきましては、今まで通り会費無料（ご家族の方含む）となっております。懐かしい先生方も顔を揃えて参加予定ですので、この機会に是非足をお運びくださいませ。

**場所**　ホテル ルブラ王山
住所　〒461-8525
愛知県名古屋市千種区覚王山通8-18
電話　052-762-3151
ホームページ http://www.rubura.org/

**日時**　平成22年11月21日（日）

**総会**　14:00より　受付は30分前から
総会終了後、懇親会を行います。会費無料。

※駐車場はございますが、すべて有料です。
懇親会のお料理にはアルコールが使用してある場合がございます。
お車でのご来場は、ご遠慮ください。




●地下鉄東山線池下駅下車　2番出口(サンクレア池下地下1階)より徒歩3分
●名古屋駅より地下鉄東山線で13分
●市バス池下東下車徒歩2分
●東名高速道路利用の場合は名古屋インターより西に約20分
●東名阪経由名古屋高速吹上東出口より車で7分

毎年ゴールデンプライズ賞を表彰しています。昨年度は写真左より順に、濱田清絵さん（デザイン）、村田仁さん（洋画）、梶川俊一郎（彫刻）、福岡正臣（日本画）の皆さんが表彰されました。おめでとうございます。

## 「山田晋吾とマキノリョータ」が懇親会に登場します！

絵画科洋画コース卒業の
2人の演奏をお楽しみください♪

**山田晋吾さん（26期）・牧野綾太さん（25期）**

山田晋吾（ギター・ブズーキ）とマキノリョータ（フィドル・歌・ハーディーガーディー）は当時、日々絵の勉強をしながらこの頃から音楽活動も始めており、仲間たちと「ちんどんバンド」を結成するなど少しずつ活動の幅を広げていく。周辺の影響からヨーロッパの民族音楽に興味を持ちはじめ、山田晋吾はアイリッシュ音楽、マキノリョータは北欧や東欧の民族音楽を好んで演奏するようになる。愛知万博でのアイルランド館での演奏（山田）・松阪を拠点とするラフブランチの活動（マキノ）を経て再び二人が一緒にユニットを組むことになる。

現在アイルランドや東ヨーロッパ、北欧の伝統音楽を彷彿とさせるオリジナルのアコースティックユニット「山田晋吾とマキノリョータ」として東海圏を中心に活動中。ストリート演奏やカフェ・レストランなど場所は問わず、ホテルでのディナーショーや料亭など活動の場を広げている。

これまで３枚のアルバムをリリース。2008年にアートワークをイラストレーターの遠山敦氏、トータルディレクションをアートサロン「尼ヶ坂」の今枝和仁氏との音楽とアートのコラボレーションアルバム「鳥と猫と街の歌」（3枚目）をリリース。2009年よりサポートメンバーとして舞子（チェロ）を加え、2010年には4枚目のアルバムをリリース予定。

マキノリョータは陶工房「キエリ舎」の代表でもある。